

科目ナンバリング		U-LAS02 10003 LJ35							
授業科目名 <英訳>	音楽芸術論Ⅰ Theory of Musical Art I				担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 嶋田 久美			
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	芸術・文学・言語(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2026・前期		曜時限	月2		配当学年	全回生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]									
「癒し」という観点から音楽史を捉える。音楽は有史以来、多くの文化において人びとの「癒し」として機能してきた。その際、音楽はどのような文脈で用いられ、概念化されてきたのか。その歴史の変遷を主に西洋思想のなかに探る。									
[到達目標]									
音楽と癒しの関係について、時代ごとの特徴と歴史的背景を理解し、関連する基礎的な諸概念と音楽理論の知識を習得する。そのうえで、「音楽と癒し」というテーマについて、自身の音楽体験とのつながりを考え、論述する力を身につける。									
[授業計画と内容]									
「音楽と癒し」というテーマについて概説したのち、以下の項目について、それぞれ2～3回の講義を行う。(授業回数はフィードバックを含め全15回とする)									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋音楽について 2. 古代における音楽と癒し 3. 中世における音楽と癒し 4. ルネサンス期における音楽と癒し 5. バロック期における音楽と癒し 6. 近現代における音楽と癒し 									
[履修要件]									
<ul style="list-style-type: none"> ・初回にガイダンスを行うので、履修予定者は出席すること ・音楽芸術論Ⅱ(後期)との連続した履修を推奨する 									
[成績評価の方法・観点]									
<ul style="list-style-type: none"> ・リアクションペーパー(40%)、および期末レポート(60%) ・10回以上の出席を必須とする 									
[教科書]									
授業内で適宜資料を配付する									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
-----音楽芸術論Ⅰ(2)へ続く-----									

音楽芸術論Ⅰ(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

配付資料と参考文献、および自身のノートを活用し、前回までの講義の流れを振り返っておくこと。入門的なものでかまわないので、音楽史の研究書をあらかじめ通読しておくことが望ましい。授業内で実際に音楽を聴くための時間は限られるため、各自でできるだけそれを補うことが望ましい。

[その他(オフィスアワー等)]

[主要授業科目(学部・学科名)]